

1.5 体育専門学群

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----|
| | 1年次 | 240 - (240) | 1,334 1 (1,250) | 1,334 1 (1,250) | 254 1 (259) | 245 1 (256) | | |
| 編入学・再入学 | - - (-) | - - (-) | - - (-) | - - (-) | - - (-) | | | |
| 学生の進路 (人) | 卒業者 | 就職者 | 就職者の内訳 | | | 研修医 | 進学者 | その他 |
| | | | 企業 | 教員 | 公務員 | | | |
| 246 - (241) | 129 - (126) | 75 - (80) | 38 - (35) | 16 - (11) | - - (-) | 55 - (43) | 62 - (72) | |

・()は前年度の数値を， は外国人留学生を内数で示す。

1 体育専門学群の活動

【教育】

- (1) 法人化への対応，国際交流の促進，カリキュラムの充実，授業方法の改善，運動競技部強化のための条件整備を基本方針として活動した。このうち，法人化に関しては，地域貢献を含む「つくばユナイテッド」構想などを推進した。国際交流では，カナダ・トロント大学，オーストラリア・クイーンズランド大学との協定を推進した。
- (2) a)カリキュラムの充実と，b)授業方法の改善に取り組んだ。a)については，教育課程委員会を中心に教育内容および卒業研究領域の検討を行った。また大学院との合同委員会を組織し，カリキュラムの一貫性を図るための検討を始めた。b)については，学群総合科目「体育科学入門 および 」のテキスト（前年度作成）の充実（約2倍）を図った。また，前年度に検討した専門語学（英語）教育のあり方を踏まえて，学群生の英語力向上支援策（補習の実施，語学クラス編成）を実施に移した。また，実技能検定（仮）の導入について検討した。さらに，学群長賞の対象者に学業成績優秀者を加え，学生の学習意欲を喚起した。

【学生生活】

- (1) フレッシュマンセミナーを充実させるとともに，総合演習を実施して総合学習の指導法や教授を介して学生と教員のかかわりを深めた。2年次については，主専攻分野を活用したクラス編成を専門語学の授業との一体化をはかり，クラス制度の活性化と指導体制の充実を図ることとした。併せて，3,4年次については，卒業論文指導教官による学生生活についての指導・支援を推進した。
- (2) 運動競技部については，その活動を推進するため電子掲示板での成績公表，表彰制度の導入，指導教官の教育評価への組み入れなどの方策を採用してきた結果，目覚ましい活躍を示した。就職対策については，外部講師を招いてのガイダンス開催，就職開拓活動など積極的に取り組んだ。

2 教員の教育業績評価の状況

前年度に教育業績評価検討委員会で作成された「教育業績の評価基準」を昇任人事の業績評価に用いた。また，学生による授業評価および教官による授業評価の導入に向けた検討を次年度から行うことになった。

3 自己評価と課題

- (1) 学群の教育に特に大きな問題や障害はなかったが，学生生活の多様化を踏まえ体育・スポーツのアイデンティティを学生に持たせる指導が必要である。
- (2) 授業内容や方法の検討はこれまでも実施しているが，教官個人の努力によるところが大きく，さらに学群一体となったカリキュラムの改善，授業内容の精選，卒業研究領域の再編に取り組む必要がある。
- (3) 本学群施設の整備については，緊急を要する部分の整備修理が認められた。しかし，老朽化した施設はまだ多く，学群予算設備委員会を中心に体育センター，本部との連携を深めながら，整備改修が必要な箇所を点検し，計画的かつ迅速な対応を目指す必要がある。